

健康保険組合レセプトデータを使った医療費の分析

村松容子*

概要

本稿では、患者の1年間の医療費と3年後の医療費との関係を分析することによって、一部の患者への医療費の偏り具合と、疾病別の医療費の偏り具合の特徴を確認した。既存の研究により、医療費は、一部の患者に集中して発生していることが確認されている。また、単年度に医療費を消費しないグループは、持続的に健康であること、同一世代内でも加齢とともに確定的に高額医療消費をするグループとそうでないグループとに分かれていくこと、持続性は中高年以降に高まること、入院のみならず慢性疾患の長期的な外来診療も持続性に寄与していること等も確認されている。本稿では、健康保険組合のレセプトデータを中心とするレセプトデータベースを使用して、患者一人あたりの医療費を分析することで、医療費の集中度合いと医療費の持続状況を確認した上で、疾病別の医療費の変動の特徴を確認した。その結果、既存の文献と同様に、医療費には偏りがあること、医療費の持続性は、年齢が高いほど高い傾向があることが確認できた。また、疾病別に医療費の変動を比較すると、医療費が高い傾向にあった疾病では医療費が高い状態がより長く続く傾向があることが確認できた。

キーワード：レセプトデータ、医療費、健康保険組合、医療費の偏り

1 はじめに

厚生労働省が発表している「年齢階級別一人当たり医療費」によれば、医療費は乳幼児期を除いて年齢とともに増加する。入院医療費、入院外医療費ともに60歳代以降で医療費の増加幅は大きくなり、70歳以降で入院医療費が入院外医療費を上回る。しかし、この統計は年齢階層別にみた平均的な医療費である。実際は、医療費がほとんどかかっていない人もあれば、高額な人もあり、医療費は一部の患者に偏って発生していることが知られている。また、高齢期に医療費が高額な人は、概して70歳未満の比較的若い頃から医療費が高額であるケースが多く、医療費が高い状態は継続する傾向があることも知られている。

しかし、その一方で高齢であってもまったく病院に行かない人もあるほか、同じ疾病を発症しても全員が医療費が高い状態が継続するわけではない。本稿では、医療費がどのような患者に偏って発

* ニッセイ基礎研究所 保険研究部 〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 email: yoko@nli-research.co.jp